

学術フォーラム「Future Earth:
持続可能な未来の社会に向けて」

Future Earthの必要性 文化人類学からの問題提起

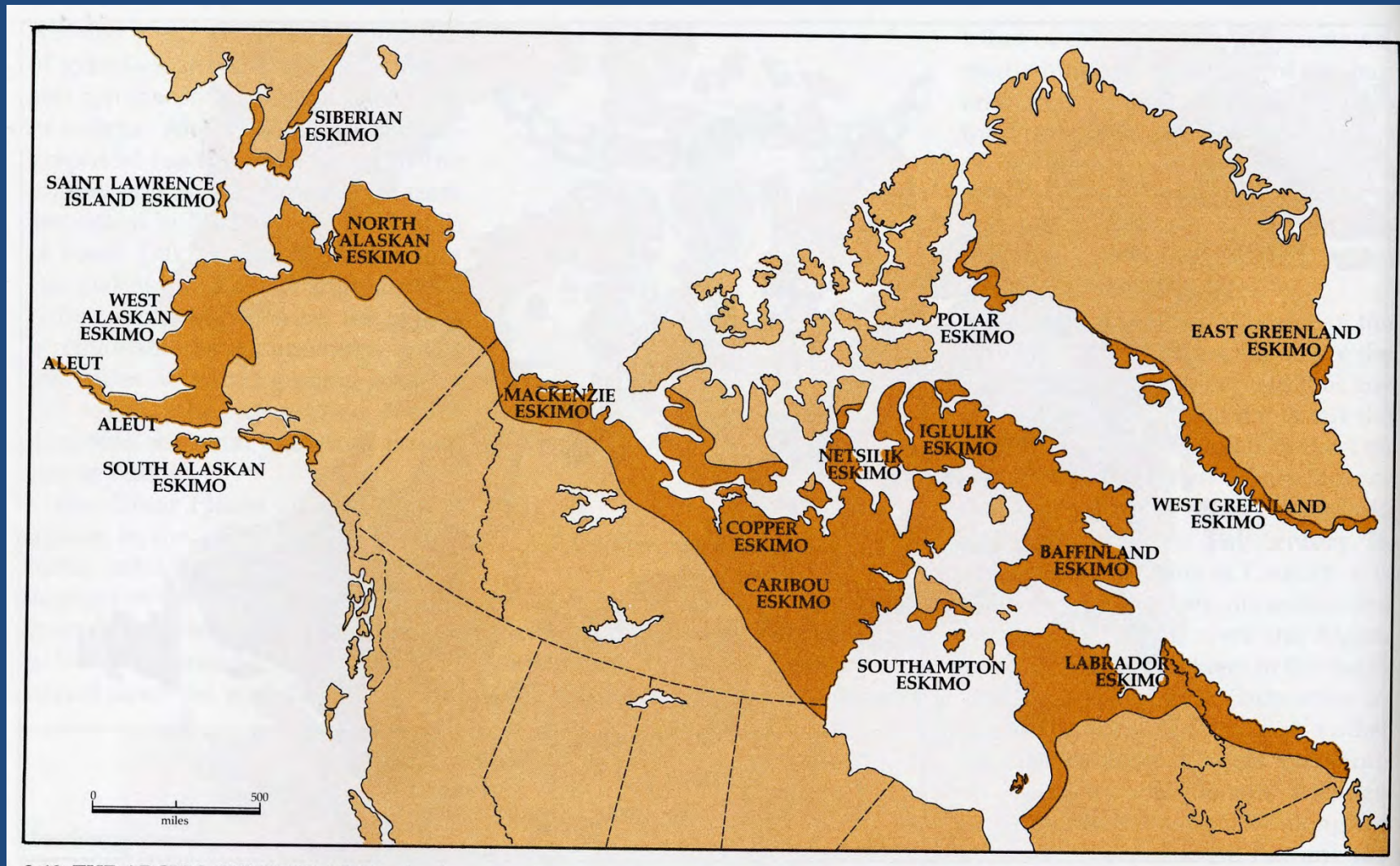
岸上伸啓

(人間文化研究機構・国立民族学博物館)

文化人類学と極北先住民研究

- 文化人類学: フィールドワークを実施し、現地の視点を重んじつつ、社会や文化を研究する。
- 専門: 北アメリカの極北先住民文化の研究
- 気候変動の影響
- 残留性有機汚染物質による環境汚染

北極地域への地球温暖化の影響



2-10 THE ARCTIC CULTURE AREA

極北地域の捕鯨民



夏



冬



春季捕鯨



春季捕鯨



春季捕鯨



春季捕鯨



気候変動の諸影響

- 北アメリカの極北民は、文化（知恵と技術）によって環境の変化に適応してきた。
- 予想できない気象の出現への戸惑い

気候の変化の影響(1)

- クジラへの影響
- 捕鯨への影響(海水原の不安定化、風向きの変化)
- 地下貯蔵穴庫の融解

気候変動の影響(2)

- 北極海の凍結海域や時期の減少＝＞
- 油田開発の模索(調査、試掘、実施)
- 北西航路を海運に利用する。
- ＝＞クジラの季節移動や捕鯨に影響

海氷と地下貯蔵穴庫



油田開発



海運



文化人類学的調査の特徴と限界

- 現地の人々に気候変動がどのような影響を与えているか、をミクロな視点から提示できる。
- 根本的な問題解決に寄与できない。問題への対処や解決には、科学や工学の応用が必要。
- 文理の併用もしくは賢い活用が必要

文化人類学者の役割

- 住民の問題を発見し、提示する役割。
- 気候変動のような問題の解決や対処には、自然科学的調査が不可欠。
- 文化人類学者は、地元民と外部社会(科学者や科学的実践)の仲介者となり得る。